

コンゴ民主共和国における日本語教育の現状



ジャパンコーナーのコーディネーター

1. はじめに

私はアンドレアス・ムスサと申します。コンゴ民主共和国（DRC）における日本文化および日本語教育の普及を目的とした団体「ジャパンコーナー」のコーディネーターを務めております。数年来、私たちは日本語教育および若者の育成支援に注力しており、言語学習が人々の交流と理解を促進する重要な手段であると確信しています。

コンゴ国内における日本語への関心は年々高まっており、アニメ、マンガ、日本の技術への関心はその背景にあります。多くの若者にとって、日本語学習は単なる文化的な興味にとどまらず、学術的・職業的なキャリア形成の一環として位置付けられています。本稿では、コンゴにおける日本語教育の現状を概観し、直面する主要な課題を分析するとともに、今後の展望について考察いたします。



新任の日本語教師

2. 日本語教育活動

2.1 日本語講座

ジャパンコーナーでは、日本語教育を三種類の講座に分けて実施しています。第一に、日常会話講座です。本講座は、学習者が日常生活の場面で流暢に表現できることを目的としており、実践的かつコミュニケーション能力の習得を希望する若者に特に適しています。

第二に、日本語能力試験（JLPT）対策講座です。本講座は、日本語の公式資格取得を目指す学生向けに設計されており、文法、聴解、読解の集中トレーニングおよび模擬試験を含みます。

第三に、個別指導講座があります。こちらは主に日本への留学を希望する学生向けで、各学習者の目的やニーズに応じた個別サポートを提供しています。



日本語クラス 夏休みにおける慶應義塾大学の学生との

2.2 日本語クラブ

講座に加え、日本語クラブは学習と交流のための重要な場を提供しています。本クラブはオンラインで運営され、コンゴと日本の学生が参加しています。日常文化や社会問題など多岐にわたるテーマについて議論することで、言語運用能力の向上と異文化理解を促進します。

クラブ活動により、学習者は教室で習得した知識を実践的に応用できる機会を得ます。言語学習に留まらず、コンゴと日本の若者間の人的ネットワークを強化し、協力のダイナミズムを生み出しています。



毎週土曜日のオンライン日本語クラブセッション

2.3 文化活動

ジャパンコーナーでは、日本文化理解を促進する各種文化活動も実施しています。箸の使い方、折り紙、浴衣の着付け、日本食の調理などを体験することで、参加者は日本文化を具体的かつ感覚的に学ぶことができます。

私は日本の旅館での研修経験を活かし、本格的な料理デモンストレーションを提供しています。各文化活動では、寿司、カレーライス、天ぷら、お好み焼きなど、コンゴの方々にも親しみやすい日本料理を準備しています。

これらの文化活動は学習意欲を高める強力な手段となり、言語学習と文化実践を結び付けることで、日本語教育の教育的価値を一層高めています。



毎月最終土曜日の月例文化イベント

2.4 通訳・翻訳活動

ジャパンコーナーの重要な活動の一つに、通訳・翻訳があります。教師やボランティアを派遣し、JICA や日本大使館が主催する会議やイベントでの翻訳業務を行っています。

この活動は、コンゴと日本のパートナー間のコミュニケーションを円滑にし、言語の壁を解消する上で極めて重要です。参加する教師や学生は貴重な経験を積み、専門能力を向上させることができます。これにより、日本語教育は学術的枠を超え、社会や二国間関係に直接的な影響を与えることが示されています。



コンゴ人日本語講師による翻訳・通訳

3. 地理的展開

現状、コンゴにおける日本語教育はほぼ首都キンシャサに集中しています。しかし、コンゴは広大な国土を有しており、ゴマやルブンバシなどの他の主要都市でも日本語学習の需要が高まっています。

多くの若者が日本語を学びたいと希望していますが、資金不足により地方での教育拠点開設は制約されています。十分な資源があれば、教師派遣、研修実施、地域プログラムの安定的な導入が可能です。

将来的には、コンゴ・ブラザビル、ブルンジ、ルワンダなど近隣諸国にも活動を拡大し、同様の言語・文化への関心に応えることを検討しています。

4. 歴史的展開

コンゴにおける日本語教育は比較的新しい分野です。「アカデックス」小学校の創設後に始まりました。この学校は、シモン・ベデロ氏および長谷部陽子教授の主導で設立され、日本人ボランティア、学生、他の教員、コンゴ人が参加しました。本プロジェクトにより、初の日本語講座が開講され、体系的な教育プログラムの必要性が明らかになりました。

2011年には岩崎教授が参加し、MISJメソッド（岩崎メソッド）を導入しました。この教育法により、初期の地元教師が養成され、持続可能な教育体系の基礎が築かれました。若い分野であるにもかかわらず、コンゴの日本語教育は強いコミットメントと継続的發展を示しています。



MISJ創設者・岩崎先生による日本語教師研修

5. 現在の課題

進展はあるものの、コンゴの日本語教育の発展にはいくつかの課題があります。第一に、資格を有する教師の不足です。MISJメソッドで養成された35名のうち、現在活動しているのは15名のみで、多くは低報酬や職業的安定性の欠如により離職しました。

第二に、適切な教材の不足が教育の継続性と質を阻害しています。さらに、日本の大学や教育機関との制度的連携の弱さも課題であり、学术交流や国際協力を制限しています。これらの障壁を解消することが、持続可能な教育体制確立の鍵となります。

6. 今後の展望と支援の必要性

これらの課題を克服するため、以下の施策が重要です。

1. 教師養成の強化：より多くの教師が毎年、ジャパンファウンデーションの研修に参加できる体制を整えること。
2. 文化活動の支援：ワークショップやイベントへの資金提供により、学習者層の拡大と学習意欲の向上を図ること。
3. 大学・企業との連携強化：これにより、コンゴの学生に対する奨学金や就職機会の提供が可能となり、アフリカ進出企業のニーズにも応えること。

RDCにおける日本語教育の未来は、現地関係者と日本側パートナーの協力を大きく依存しています。

7. 結論

コンゴにおける日本語教育はまだ若いものの、すでに確固たる基盤が築かれています。教育コミュニティとパートナーの努力により、学習者数は増加し、活動は多様化しています。

課題は依然として多く、特に教師養成、教材整備、制度的連携において顕著です。しかし、支援の強化と調整の改善により、日本語教育は日本とアフリカの架け橋として大きな可能性を持つと考えられます。

ジャパンコーナーのコーディネーターとして、私は日本語とその文化が両社会の間に強固な橋を築くことに貢献すると確信しています。